

Ⅲ 神代の杜

第1 基本方針

本施設は、地域密着型介護老人福祉施設であり、かつ調布八雲苑のサテライト施設である。このことから、調布市と調布八雲苑との密接な連携と情報共有により、円滑な施設運営を行う。

また、地域密着型施設としての機能強化を図り、地区協議会（北ノ台まちづくりネットワーク）、地元自治会、地区の民生児童委員協議会や近隣の小学校・保育所などをはじめとする関係機関との連携を重視し、地域に貢献するとともに地域から選ばれる施設になることを目指していく。

利用者ケアについては、一人ひとりがその人らしくこれまでと変わらない日常生活を維持できるよう、ユニットケアの特性を活かした支援体制の確立を図る。

特に、平成31年度の介護報酬改定は、職員の処遇改善も対象としていることから、職員の資質向上を目指すとともにサービスの質を高めて、利用者及び家族の満足度を向上できるようなサービスを提供する。

第2 経営目標

利用率については、以下のとおりとする。

短期入所生活介護事業（併設型ショートステイ）については、ここ数年の実績から達成可能な目標値とすることが現実的と思われるが、予算上の観点から設定した。

(1) 介護老人福祉施設（小規模特別養護老人ホーム）	利用率	97%
(2) 短期入所生活介護事業（ショートステイ）	利用率	80%

第3 重点事項

1 施設機能の強化とサービスの質の標準化

地域密着型特養の3ユニットの特色を活かし、利用者個々のその人らしい生活の継続を支援する。利用者に関わる事業や各種会議については、施設単位とユニット単位（ユニット会議等）で実施し検討することを明確にする。

また、ユニット間での協調関係を推進し提供サービスに差異が生じないように、3ユニットでのサービスの質の標準化を目指す。

2 健全な事業経営のための基盤整備

神代の杜においては、昨年度、一昨年度と赤字収支となった。

赤字解消の手段として、利用率を向上させて収益を確保することが健全な経営の第一歩である。そのために、新規入居調査から入居前の健康診断に至るま

での期間を従来は、4週間かかっていたものを3週間程度で入居できるように改善したい。

また、入居待機者は依然として多数ではあるものの、入居申し込みから短期間で他特養に入居していることが多い。このことから、入居申込書を受理した段階で入居希望者の状態と家族の入居に対する意向を確認し、他の特養との競合に対処する手段を講じる。

3 直営式給食調理業務の継続と安全衛生管理の推進

神代の杜の給食調理業務が直営化方式になってから1年4か月経過し、労務管理を行う事務職員、管理栄養士、調理員が、東京かたばみ会の職員としての自覚をもち、安全で美味しい給食を提供できている。

今年度も多職種会議を実施し職員全体で施設としての一体感を高めるとともに定期的に調理師会議を実施し調理業務を円滑に遂行できるよう情報共有する。

また、調理員の直接雇用からシニア世代の雇用人数が増加している。このことから、職員の安全や健康管理を徹底するため、安全衛生推進者を選任し危険予知活動の推進に必要な手法を習得する。

4 地域密着型施設としての地域貢献について

地域密着型施設として、地域交流スペースの有効活用の充実を図るために、「調布市シェアスペース活用等マッチング制度」の登録申請を行う。このことを踏まえて、地域活動等の積極的な受け入れを行い、施設機能を地域に還元する。

また、2か月に1回開催している運営推進会議で地域の情報の収集を行うとともに、施設の課題の解決策に対しても意見を聴いていく。

なお、平成31年度も引き続き、北ノ台地区協議会の運営委員として参画し、北ノ台地区における情報や課題を共有し地域コミュニティの活性化の一翼を担えるよう努力する。